

山川地域住民説明会質疑等の概要【利永小学校区】

○日時：平成31年3月5日（火） 19:00～20:30

○場所：利永集落センター ○参加者：43人

参加者）スクールバスの運行について、低学年と高学年の下校時間が違うが、低学年は高学年が終わるまで待つか。乗車人数が少なくとも往復するのか。また、大成小まで約3.5kmあるが、バスに乗れるのか。

事務局）先進地を調べていると、下校時は、低学年と高学年を別々に送っているところがある。指宿ではこれから協議だが、先進地を参考にしたい。スクールバスの乗車については、何km以上が乗車するという明確な基準はないが、国からの補助金については4kmという基準がある。そこは協議をしながら、どこかで線を引かないといけないと思うが、利永校区の中で4kmを境に分けるのは少し違うのかなと思っている。例えば、旧小学校区で分けた方が説明しやすいのではないかと考えている。

運行便数については、現時点では、朝は1便、帰りは低学年と高学年の2便という方向で考えている。今後、学校とも協議しながら、どの時間に子どもたちを帰した方が安全かという協議をしていかないといけない。早く帰っても家に面倒を見てくれる人がいないなら、図書館で本を読ませたり、宿題をさせたりと、世話をしてくれる学校応援団のような方がいれば、そこで少し預かってもらって、高学年と一緒に帰るとか、いろいろな方法があると思う。先日、加世田小学校に視察に行ったが、帰りは低学年3人で1便が運行していた。

参加者）伝統行事の琉球傘踊りを運動会で披露している。それに向け、放課後、小学生3年生から中学生を交えて毎年体育館で練習している。今まで学校が終わると、すぐ練習に加わることができていたが、集約されるとスクールバスで帰る時間が遅くなって、練習が上手くいかないのではないか。新しい学校になっても、練習に協力してくれるのか。

また、今まで小学校と区が一緒に合同運動会をやっていたが、利永小がなくなった場合は、区単独の運動会になる。そうなると、伝統行事の継承はできないのではないか。

事務局）伝統芸能等についても今後協議をしたいと思っている。子どもたちは、自分の住んでいる地域の郷土芸能は知っているが、他の地域の郷土芸能を知らない。開聞地域では、小中一貫教育の取組の中で、小5、6、中1年生が開聞中に集まって郷土芸能保存会の方と一緒に郷土芸能体験をしたりしている。鹿屋では、集約した学校で、各地域の郷土芸能を1学期はA地区、2学期はB地区という形でやったりしている。どんどん子どもが減っていき、郷土芸能を伝承できないという中で、新しい学校で一緒にやっていくのも一つの方法なのかなと考えている。また、小中一貫教育の一つとして「いぶ好き『ふるさと学』」でふるさと教育を進めていきたいと考えている。自分の地域を好きになって、地域のために頑張る子を育てたいという願いを持っているので、地域の素晴らしいものは伝統として引き継いでいかないといけない。今後協議がなされ、調整ができると思っている。

傘踊りについては、練習は19時位からしているということだったので、スクールバスで17時位に帰っても間に合うのかなと思う。やりにくかったら、学校と調整して、子どもたちにとってより良い送迎ができるようなスクールバスの運行体制をつくっていく必要があると思う。先進地では、スクールバスの時間は、行事と突き合わせて、ひと月ごとに運行時間を決めているようであった。なので、練習時間等を学校に相談してくれたら、その辺は解決できるのかなと思う。

運動会については、開闢地域では、地域の運動会を、仙田区だけ、上野区だけで実施しているようだ。地域の運動会をどのように開催していくかは、今後の協議になるのだと考えている。「学校がなくなって寂しい」で終わらないように投げかけ、協議をしていきたい。

参加者) 小学校を使わなければ区の運動会をする場所がない。市の許可をもらって使えるのか。また、学校は災害時の避難場所にもなっているが使えるのか。

事務局) 調整会議でもそのような意見をいただいている。全国的には、学校跡地を福祉施設やレストラン、レンタルオフィスなどいろいろ活用している。運動会での活用や避難所として活用、校区公民館としての活用もあるかもしれない。区で決めさせてほしいという意見も出ているので区民の方々の意見を伺いながら方向性を決めていきたい。すぐに校舎や体育館がなくなるわけではないので、いろいろな利活用方法を考えていきたい。

参加者) 都会のほうでは、校舎を水族館にしたり、IT企業が入ったりしているようだ。利永は地場産業がないので、市が力を入れて案を持ってきてほしい。自分たちで探すのには無理がある。

事務局) おそらく民間事業者に売り込んでいくのは市だと思う。地域活性化などいろいろ考えられる。アワビを養殖したりして、新しく仕事が生まれている所もある。そういうことも含めながら、「でもやはり運動会もしたい」ということであれば、そういう活用もできないか検討しつつ、地域の方に喜んでいただけるような活用方法について、意見をいろいろもらいながら検討していきたい。

参加者) 調整会議の中で、集約に対して各校区で温度差はあったのか。利永校区の保護者の考え方や思ひはどういうものがあったのか。方向性としては保護者の方も望ましいと考えているのか。

事務局) 調整会議では、それぞれの小学校区に分かれて協議し、意見を出してもらっている。小学校区ごとにいろいろな意見があり、最初は温度差があったが、今は、「現在の大成小学校の校舎などを活用していく方向」について理解をいただいている。しかし、調整を進める中で、疑問があったり、要望があったりするので、それぞれの思いが叶うように、理解していただけるように調整していくかないといけない。今回行っている説明会の中で、小学校を残してほしいという意見もあるが、今はこういう形で協議を進めることについて、理解をいただきながら、調整しているところである。

これまでの調整会議での検討の経緯を説明すると、まず、最初に、どこの学校に集約するのかを協議した。教育委員会としては、既存の校舎等を使いたいので教室数の関係で山川小か大成小でないと全児童が入らないので、大成小か山川小を候補地としたいことを提案し、調整会議の委員で実際に山川小と大成小の現地調査も行った。

その後、4回目の会議で最終的な小学校区の意見をまとめ、その意見を参考に教育委員会の案を作成し、市長、教育長、教育委員の協議の場である「総合教育会議」での合意や、「定例教育委員会」での了承を得て、議会にも報告した。

学校位置の検討に当たっていただいた意見としては、ある校区では、「山川小、大成小どちらでも構わないが、スクールバスの構内への乗り入れが可能とならなければ賛成できない。両学校とも危険箇所があるのでその解消をしてほしい」という意見。別な校区では、「利便性、通学バス、予算面を考えると大成小が望ましいのではないか。学校の名称は山川小学校でいいのではないか。学校再編は大きな時代の流れなので、山川地域全体が協力して考えていかないといけないのではないか」。別な校区では、「山川中学校との連携を図れるということで、大成小学校が望ましいのではないか。ただし、安

全に駐車場に乗り入れができるようにしてほしい。別な校区では、「比較材料が少なく現時点では判断ができない。バスの経費、駐車場などの比較材料がなければ地域に説明ができない。調整会議としては山川小に集約する案と大成小に集約する案の2つの案までのまとめにしてはどうか」という意見が各校区からそれぞれ出た。大きな反対という意見はなく、ゆくゆくは望ましい学校づくりはしないといけないという考え方の中で、山川地域で一緒になって考えていくうという意見が多い。

保護者の意見については、昨年8月に保護者説明会をしたが、参加者が少なかったので、10月11日に利永小で19人の保護者と意見交換を行った。そこでは、「平成33年度に間に合うのか不安だ」という意見も出たが、今はその後の協議で、ある程度方向性がみえてきている。また、「安心できるスクールバスや『こんな教室ができる、こんな教育ができる』という青写真があれば安心できる」という意見や「学童の数が少ないので検討してほしい」「路線バスで通うことになる場合、引率の先生は乗らないのか」「同級生が少ないので、新しい学校に行ったときに、友達と別々のクラスになったら不安だ」「校則を決めるとき多数決になつたら、小さな学校の意見は負けてしまう」「校舎等はそのままの形で残して、学童や公民館をつくってほしい」などの意見をいただいた。

スクールバスについては、委託で運行している市町村が多いが、今後協議していくことになる。

友達とクラスが分かれると心配だということについては、他の町では、学校再編をするときに既存校の先生方も何人か新しい学校に異動したりして、安心できるような形をつくっている。

校則については学校で決めていく必要がある。再編前に決めるものもあるが、再編してからも学校で協議を進めていく必要もあると考えている。

この他、「利永から大きな学校に通うことができたら、帰ってくる人が逆に増えるのではないか」という意見もあった。他の市町村に問い合わせたら、「それが原因だとは限らないが、確かに学校再編をしてから新築の家が建つたり、人が増えたりした事例もある」という話を聞いた。

利永小の保護者の学校集約に対する思いは非常に強いと感じた。「何をやっているのか。早く調整をしてほしい。早く協議を進めて、間に合うようにしてほしい」ということを何度も言わされた。前向きな意見をたくさんいただきて、協議の参考にさせていただいている。

参加者) 集約した場合は、校区公民館は1か所になるのか。今は公民館主事が4人いて各校区の行事や応援団等にも協力しているが、1人でカバーするのは難しいと思う。校区公民館は学校とのパイプ役も兼ねている。集約したとしても子どもはいるので、公民館主事が減るというのはおかしい。

事務局) 現時点ではまだ協議していない。現在は校区公民館が4か所あり、公民館主事が4人いる。これを1か所にしていいのか、担当部署の社会教育課と一緒に、調整会議からの意見もいただきながら協議していきたい。

参加者) 利永保育所も小学校を借りて運動会をしている。学校跡地の活用について、いつ頃どのようにして決まるのか。

事務局) 学校跡地は、学校が集約してからでなければ使えないで、現時点では急がなくともいいのではないかという思いもあった。しかし、校区公民館や運動会のことなど、ある程度方向性が見えてきた方が地域の方が安心、納得できるのであれば、協議を早いうちに進めていく必要があると思った。利永保育所が活用要望があるのか協議したい。いつまでに決まるというのは現時点では分からない。

学校跡地の活用については、教育委員会だけでなく、市長公室等、市長部局とも協議をしながら進めていかないといけないと思っている。地域からの活用要望や行政側での協議状況によって、どのよ

うな方向に持つていったらしいのか調整していきたい。

参加者) 自分の卒業した小学校がなくなるのは寂しい気がする。しかし、子どもが17名、学年によっては1人しかしない。保護者の負担などを考えると、教育委員会が進めている集約を早目にしてほしい。自分たちの学校がなくなっても新たな学校ができるので、他のどの学校にも負けないような魅力のある学校をつくってほしい。なるべく保護者に負担がかからないような形で取り組んでほしい。

事務局) 指宿・山川・開聞地域でそれぞれ望ましい学校づくりについての協議を進めている。現在は山川地域が先行して協議が進んでいる。だから、山川地域の学校集約は指宿市全体のモデル的な学校にならないといけないという思いがあるし、市民の皆さんのが注目しているとも思っている。教育委員会としては、ソフト面もハード面もきちんと対応できるようにしないといけないと考えている。当然、予算面も考えていかないといけない。できるだけ多くのことを調整しながら、早目の対応をしていきたい。

参加者) 制服等も大事だと思うが、利永区民としては、やはり跡地利用が一番大事だと思っている。だから、区の総会とは別に利永の住民の方に集まつていただき、話し合いをして、その結果を調整会議に出したいと思っている。調整会議では跡地利用については利永校区の意見として、反映させてほしいと思っている。よろしくお願ひします。

事務局) 区の協議の中で事務局の協力が必要であれば、声をかけてほしい。

参加者) 大人への説明会は何度もあるが、子どもたちはこういう説明を受けたことがないので、すごく不安に思っている。子どもたちへも、子どもたちに分かる言葉で説明する機会をつくってほしい。

事務局) 子どもたちに対しては、内容が難しくて、私たちが話をしてしまうと誘導してしまうのではないかという思いがあり、これまで話をしてこなかった。子どもたちへの説明は学校の協力がないと難しいので、校長、教頭と協議しながら、時間をいただけるのであれば、子どもたちに分かるような言葉で、今の状況や「新しい学校ではこんな授業ができるよ」という説明をしていきたい。

以上